

## 未来ノート

-202Xの君へ-

## フェンシング

みのべ かず やす

## 見延和靖

最初は空手少年

恩師との出会い

世界と渡り合う

エースで狙う金

## 距離感・隙のつき方を得た

「自分からやりたいと言ったスポーツは、実は空手だけなんです」

フェンシング男子エペの見延和靖(32)は照れ笑いしながら教えてくれた。来年の東京五輪で団体、個人ともに金メダルを狙える日本のエースは小学生の頃、空手少年だった。

福井県越前市出身。きっかけは、小学1年生の時、近くの空手道場が教室に

置いたピラだった。「瓦を割りたい」と友達を誘って道場に通うようになった。3人兄弟の末っ子で、体を動かすのが大好きだった。

「実際に瓦を割ることは

- ④男子エペの見延和靖  
⑤小学生時代は空手少年だった見延和靖=本人提供



なかったんですけど……。

いまでも格闘技が好き」という見延はすっかり空手にはまった。目の前の相手に負けたくない。1対1の勝負が性にあった。「空手で得た、相手との距離の取り方、隙のつき方はフェンシングでもたけている」

を設定して全国で勝ちたいとか思うタイプでない」と見延。抜群の運動神経で高校からの誘いもあった。ただ、今も身長は177センチ。パレーの選手としては決して高くない。限界が来るだろうなど感じていた。

そんなときに父から勧められたのがフェンシングだった。地元には全国的にも強豪校の武生商高があり、中学生でも体験入部ができるという。「空手ほど危なくないし、剣を振り回すのが楽しかった」。加えて魅力的だったのが「大学への推薦」。フェンシングで結果を残せば、東京の大学に推薦でいけるという。勉強は得意な方ではなかった。高校受験を機にフェンシングと向き合う競技生活が始まった。

「負けたくないという気持ちは強いけど、自ら目標

持ちは強いけど、自ら目標

◆「未来ノート」スクラップブックは、全国のASA(朝日新聞販売所)でお配りしています。インターネットの特設ページではイベントやスクラップブックについて詳しく紹介しています。「未来ノート 朝日新聞」で検索してください。